

質問者 北川 道夫 議員

問 1（再 1）. グループとしての推進体制構築

（北川議員）

中央市民病院で拠点病院を目指していただきたいが、大学病院ではなく市民病院であり、またスタッフ、研究員、設備と莫大な費用が必要であるため、京都大学の連携病院が良いのではないかと考えています。

現在、国主導で、厚生労働省と国立がん研究センターとシスメックスの子会社である理研ジェネシス社が、がんゲノムの検査体制を川崎市に設けておりますが、2019 年度から保険適用になった場合、ニーズが大幅に増加することが予想されます。毎年新たになんと診断される方が 100 万人程度おり、この治療を選択される方が 1% だとしても 1 万人程度出てくることとなります。国内では川崎市の理研ジェネシス社が一手に検査体制を引き受けておられますが、ニーズが 20 倍、30 倍になった場合、検査体制が大変な状況になるのではないかと考えております。

シスメックス社は神戸が本社で、神戸商工会議所の会頭でもあり、東日本の検査体制は川崎市に拠点として整備されていますが、西日本の検査体制の拠点を神戸に誘致し、医療体制の下地を作りたいと考えています。治療の場としては中央市民病院に患者や研究員がおり、中央市民病院単独では難しいかもしれませんが、トータルでグループとして、神戸の地でがんゲノム医療の体制を整備していく必要があると考えますが、見解を伺います。

（岡口副市長）

ご指摘の理研ジェネシス社は、本社が東京の企業であり、複数あったラボを集約する際に、本社に近く、まとまったスペースを確保できる川崎を選定したと聞いております。シスメックス社については、これまで、家次会長に神戸医療産業都市のビジョン策定にご参画いただくなど、神戸医療産業都市の推進に様々な形で支援をいただいております。また、昨年からは、神戸医療産業都市推進機構と免疫関連疾患の共同研究を行うなど、具体的な連携も開始しているところであります。さらに、来月には、新たな遺伝子検査の研究開発等を行うバイオ診断薬センターを、西神工業団地に開設する予定となっております。引き続き、シスメックス社との連携を密にするとともに、がんゲノム検査に対するニーズ増加により、遺伝子解析の西日本拠点を置く状況になった場合には、神戸に拠点を置いていただけるよう、積極的に取り組んでまいりたい。

また、新たな抗がん剤の開発についても、中央市民病院において、神戸医療産業都市の進出企業を含む複数の企業治験が既に行われているところであります。今後も、中央市民病院を中心として、シスメックス社をはじめとする神戸医療産業都市の企業・団体に対する支援、連携強化を図り、検査方法や抗がん剤の研究開発、治療まで、神戸医療産業都市としてがんゲノム医療の拠点となることを目指し取り組みを進めてまいりたい。

（北川議員）

国が主導している医療であり、国に要望していかなければならない課題であります。国立がんセンターと厚生労働省に、神戸市としてもっと積極的に訴えかけていただきたい。企画調整局には厚生労働省から職員が来られており、パイプもあります。医療産業都市を標榜するなら早急に今申し上げた提案を進めていただきたい。